HOWS：本郷文化フォーラムワーカーズスクール《講座紹介》2009年度本科前期（2009年５月９日㈯～９月29日㈫）

●現代への疑問と不満を抱き、矛盾の解決をめざす人びとへ――ここHOWSで、真実の思考を追究しよう！

第10期前期開講講座

5月9日㈯　午後1時～

恐慌下、オバマ政権登場の意味

―― 日米同盟強化と対朝鮮政策をめぐって

講師＝鎌倉孝夫（埼玉大学名誉教授）

1、国民投票法の始動を協働の力で止めよう

自・公・民・国民新党の改憲派議員による新憲法制定議員同盟（会長＝中曽根康弘元首相）は、４月２日会合を開き、経済団体の意見を聞いている。そこで日本経団連、経済同友会、日本青年会議所の各経済団体は、いずれも戦力の不保持を定めた９条２項と硬性憲法としての改正手続を定めた96条の改悪を主張している。壊憲手続法施行の2010年５月18日まであと１年。国民投票法の撤廃運動展開のために、以下の講座を用意した。

①５月18日㈪　ストップ！壊憲手続き法　始動まであと1年
国民投票法を許さない5･18集会

②６月20日㈯　人民主権と日本国憲法
講師＝**杉原泰雄**（一橋大学名誉教授）

③９月15日㈫　天皇在位20年と象徴天皇制
報告＝**西川重則**（平和遺族会全国連絡会代表）

2、戦後日本の労働・革命運動に学ぶ

――『戦後日本労働運動史』（海野幸隆、小林英男、芝寛編著　スペース伽耶から新装復刻版を発刊）をテキストに

戦後の民主化とともに躍進した労働組合運動と民主・革命運動も、60年の歳月を経て、いまや新自由主義による個人主義とカネ万能の風潮が蔓延し、非正規労働者が三分の一以上を占めるまでになっている。この状況に風穴をあけるため、先輩がいかにたたかい、勝利し、敗北したのかを新装復刻版『戦後日本労働運動史』をテキストに検証し、現在のたたかいに活かしたい。

チューター＝**新田　進**（国際労働運動研究）
二谷利子（HOWS校務委員）
山下勇男（社会主義理論研究）
アドバイザー＝**山中　明**（労働運動家）

①５月23日㈯　復活する日本帝国主義
―― 総評の「ニワトリからアヒルへ」、勤評、警職法から60年安保へ
報　告＝**二谷利子**（HOWS校務委員）
ゲスト＝**内田宜人**（元都教組墨田支部長）

②６月17日㈬　反独占・平和を求める統一戦線の模索
―― 三池闘争、安保改定阻止闘争
報　告＝**新田　進**（小川町シネクラブ、国際労働運動研究）
ゲスト＝**吉原節夫**（元『国際労働運動』編集長）

③７月15日㈬　戦後資本主義体制の「安定」期
―― 高度成長下春闘の展開、体制内改良主義の台頭、労働戦線の右翼的再編への予兆
報　告＝**山下勇男**（社会主義理論研究）
ゲスト＝**平賀健一郎**（中小労組政策ネットワーク事務局長）

④８月２日㈰　新自由主義政策の展開と格差社会の出現　夏季セミナー
―― 74～75年恐慌、資本による危機からの脱出策の展開、総評解体、連合発足、労働法制改悪、非正規労働者の大量の出現
報　告＝**新田　進**（小川町シネクラブ、国際労働運動研究）
ゲスト＝**宮川敏一**（元京成労組書記長）

⑤８月19日㈬　相対的安定期の終焉を経て激動の時代へ
―― 反戦青年委員会、少数派労働運動、70年安保、スト権スト敗北
報　告＝**山下勇男**（社会主義理論研究）
ゲスト＝**二瓶久勝**（国鉄闘争共闘会議議長）

3、日本労働運動の実践的課題

フランスでは、今年に入って二度のゼネストが敢行された。一度目は250万人、二度目は300万人の労働者たちが、雇用維持要求を掲げストと抗議デモを展開。国鉄は半分が、空の便は30%近くが運休し、経営側に打撃をあたえた。デモの横断幕では「やつらが危機を招き、われわれがしわ寄せを食う」と訴えた。ギリシャやイギリス、イタリア、ドイツでも100万・10万人規模のストやデモが展開され、資本家・経営者に要求を突きつけている。なぜ日本の労働運動は闘うことができないのか、本講座のなかで解明を試みたい。

①５月13日㈬　国鉄闘争の今後を考える
―― 鉄建公団訴訟東京高裁判決の意味とこれから
講師＝**萩尾健太**（弁護士）

②７月１日㈬　いま郵政現場はどうなっている？
講師＝**土田宏樹**（ＪＰ労働組合）

③８月26日㈬　ヨーロッパの労働運動はなぜ闘えるのか
―― その歴史を知り考える
講師＝**田畑博邦**（元東京大学社会科学研究所教授、国際労使関係論）

4、米国の世界覇権戦略に抗し前進する人民の闘い

ブッシュ政権が始めたアフガニスタン・イラク報復戦争は、泥沼に足をすくわれ、世界の覇者アメリカの力の限界を印象づけた。世界はいま、大恐慌のただ中で新秩序を求めて動き出している。世界はどう変わるのか、否、どう変わらねばならないのかを、最前線の闘いをとおして探り当てたい。

①７月18日㈯　09年キューバ訪問団の映像と報告
報告＝**富山栄子**（国際交流平和フォーラム代表）
09年キューバ訪問団のメンバー

②７月22日㈬　米国社会の歴史とオバマ政権
―― ニューディールとグリーン・ニューディールの間
講師＝**上杉　忍**（横浜市立大学教授・アメリカ史）

③７月25日㈯　米国からの自立をはかる諸国民の闘い
―― 21世紀社会主義とは？
講師＝**新藤通弘**（ラテンアメリカ現代史家）

④８月１日㈯　20世紀社会主義総括の視点　夏季セミナー
―― ギリシャ共産党「社会主義テーゼ」を手がかりに
報告＝**山下勇男**（社会主義理論研究）

5、死刑制度を考える

―― 裁判員制度がスタートする中で

世界各国で死刑制度の廃止が進む中で、日本ではこの数年死刑判決が急増している。にもかかわらず、「被害者の報復感情」とそれに同調する「世論」を理由として、日本は世界有数の「死刑大国」になりつつある。この５月からスタートする裁判員制度では、市民も死刑に直面せざるを得ない。講座では、死刑をめぐるさまざまな問題について、メディア・報道のあり方を含めて考えたい。

講師＝**山口正紀**（ジャーナリスト、人権と報道･連絡会世話人）

①７月８日㈬　冤罪・被害者感情と死刑
日本では、戦後４人が再審で死刑台から生還し、いまも冤罪を訴える死刑囚がいる。冤罪による死刑の恐怖について、イギリスの事例、講師が取材した裁判官の話、冤罪死刑囚の苦しみを通じて考える。
死刑存置論の大きな根拠となっている被害者感情。「死をもって償って」という被害者の思いをどう受け止めるか、死刑は被害者のためなのか、など死刑に賛成・反対する被害者の声も含めて考える。

②９月９日㈬　世論と犯罪不安・死刑制度をなくす道
死刑存置の大きな理由が、死刑に賛成する世論。被害者感情への同調のほかに、「増加する凶悪犯罪」報道による不安、死刑による犯罪抑止機能論がある。執行官の苦悩と市民の責任も含めて考える。
どう言いつくろっても、死刑は国家が人を殺す制度。日本ではなぜ死刑制度が続いているのか。終身刑導入問題、フランス・韓国など死刑を廃止した国々の経験を踏まえて、死刑制度をなくす道を考える。

※なお、後期講座にはこの5月から発足する裁判員制度の現実を、講師のこれまでの講座内容にひきつけて検証する講座を予定しています。

6、日本の短編小説を読む

これら四つの作品を一読する読者は、きっと冒頭に返ってもう一度読みたくなるであろう。いずれも人間の、性の、歴史の、深淵を垣間見せ、謎めいた余韻を湛えて、読者を魅了して止まない。

講師＝**立野正裕**（明治大学教授・英文学）

①５月26日㈫　幸田露伴作『雪たたき』（ちくま日本文学）
その数奇な出来事に男が遭遇したのは、ある雪の深い晩のことだった。木戸がひらいて先方がなんの言葉もなくさしのべてきた手が自分の手を握る。どんな運にでもぶつかってくりょう。運というものの面が見たい。こういう料簡が日頃決まっているので、男は逃げもせず、口もきかず、ただ引かれるがまま中に入った……。

②６月23日㈫　大西巨人作『五里霧』（講談社文芸文庫）
夫が不在のある夜、強盗殺人犯に強姦された人妻。犯人は和姦を主張しつつ刑死する。夫の信頼を回復し得なかった妻は離婚ののち自殺する。両者いずれの言い分に真実があるのか。本編は現代の性差の問題にもアクチュアルで重い一石を投じている。

③７月28日㈫　谷崎潤一郎作『吉野葛』（新潮文庫）
南北朝の時代から日本史の要をなす舞台でもあった大和の吉野は、花の吉野としても知られる。この地に母親の面影を尋ねる友に同道し、歴史小説の構想を練ろうとする作者だが、いつしか吉野風物詩をとおして「永遠の女性」像を描いてゆく。

④９月29日㈫　泉鏡花作『高野聖』（ちくま日本文学）
一人旅の途上で道連れとなった年輩の旅僧が打ち明ける自らの若き日に遭遇したという奇怪な物語。さて、聞かっしゃい。飛騨の山越え、路がいかにも悪い……。鏡花文学の代表作は幻想的にして怪異の次元から、やがて人間の深層へとわれわれをいざなってゆくだろう。

7、映像で読み解く現代の戦争

戦争をモチーフにした近年のすぐれた映画作品を見て、論じ合う講座。

コーディネーター＝**立野正裕**（明治大学教授・英文学）

①６月６日㈯　『白バラの祈り　ゾフィー・ショル最期の日々』
（マルク・ローテムント監督　2005年・ドイツ　121分）
新資料を踏まえて、ミュンヘン大学学生の反ナチ抵抗の事実を、ゾフィー・ショルに光を当てて描く。
ゲスト＝**山口正紀**（ジャーナリスト、人権と報道・連絡会世話人）

②７月４日㈯　『キングダム・ソルジャーズ　砂漠の敵』
（マーク・ミュンデン監督　2007年・イギリス　95分）
現代をモチーフにした映画。イラクに派遣された英国軍が民間人を逮捕し、違法な虐待をくわえた事実を描く。アブグレイブ刑務所事件を思わせる。
ゲスト＝**大西赤人**（作家）

③８月２日㈰　『ピエロの赤い鼻』　夏季セミナー
（ジャン・ベッケル監督　2003年・フランス　95分）
大戦下のフランスで、人質の銃殺に従わなかったドイツ軍兵士がいて、上官に射殺される。かれは戦前ピエロだった。命が助かったフランス人は戦後ピエロになる。
解説＝**立野正裕**（明治大学教授・英文学）

8、この人にきく

①６月３日㈬　暮らしの隣ですすむ軍事化
―― 東京・練馬、自衛隊基地の足もとに暮らして
講師＝**竹見智恵子**（ジャーナリスト）

②８月１日㈯　現代における政治と文学について　夏季セミナー
対談＝**鎌田哲哉**（『重力』編集会議）
山口直孝（二松学舎大学教員）

③９月５日㈯　朝鮮問題と日本のナショナリズム
―― 続「拉致問題で歪む日本の民主主義」
講師＝**高嶋伸欣**（琉球大学名誉教授）

④９月19日㈯　山川菊栄と過ごして
講師＝**岡部雅子**（女性史研究家）

9、HOWS美術館

われわれが生きる今を戦時下と捉えるとき、闘わなければならないのは、すでにわれわれの下意識までに埋め込まれている「戦争」のイメージの克服である。美術史に現れている「戦争」を手がかりに戦時下の今を明らかにしようとする試みである。

①７月11日㈯　日本画壇の腐敗構造（3）
―― 15年戦争下の美術
講師＝**日夏露彦**（美術評論家）

②８月29日㈯　美術館訪問
※詳細については追ってお知らせいたします。
講師＝**金山明子**（画家）／**金山政紀**（画家）

③９月12日㈯　柳瀬正夢の世界
―― いまも生きる柳瀬の仕事
講師＝**及部克人**（元武蔵野美術大学教授）
片倉義夫（漫画資料室MORI主宰）

◎ＨＯＷＳ付属ゼミナール

HOWS本科生と聴講生は、有志参加による下記ゼミナールに参加できます。参加費は各ゼミ毎に別途お支払いください。

①戦後文学ゼミ

チューター＝**武井昭夫、山口直孝、松岡慶一**

戦後文学を運動論の視点から捉えて検討し、文学運動の今日における再生を探ろうとする研究会です。これまで、宮本百合子、中野重治、佐多稲子、花田清輝、大西巨人の仕事を取り上げたほか、戦後の文学運動の歩みを確認してきました。今期で10期目を迎えます。

②群読ゼミ

世話役＝**小松厚子**

台本づくりから朗読まで、参加者全員による共同制作を行ないます。この作業を通じて参加者がそれぞれに歴史について、また時代状況について学習をすすめる運動です。テーマは状況に応じてアップツウデイトなものが参加者の討議によって決められます。テーマが決まったら、全員がそれぞれに感銘した文言、思いを込めた文章を持ち寄ります。それらを素材に台本づくり、演出、音楽、朗読などの分担を行ないます。こうしてできあがった作品は反戦平和や憲法擁護、民主主義と人権のための集会等で上演されます。ゼミの開催日時は協議のうえ、決定します。

●これまでの制作・作品には、次のものがあります。
１）いま､私たちの労働現場から――グローバル化と闘う世界の女性労働者との連帯
２）私たちの戦争案内 ―― 急速に進行する戦争体制づくりに抗して
３）戦争を止めよう！―― あなたも・日常から・世界の女性と共に
４）戦争を止めよう！ Ⅱ
５）いま、私たちの労働現場から Ⅱ
６）私たちはどういう社会をつくりたいのか ―― 憲法改悪は誰のため？
７）憲法改悪反対！　忘れるな　戦争責任と不戦の誓い
８）共闘こそ力！―― 壊憲を許すな
９）先に起つのは君だ――戦争･失業･貧困をなくそう
10）貧困と戦争の根は一つ ―― いま、私たちがしなければならないこと

HOWS講座カレンダー 2009年度前期（５月～９月）

５月９日㈯　恐慌下、オバマ政権登場の意味
　講師＝鎌倉孝夫（埼玉大学名誉教授）
５月13日㈬　国鉄闘争の今後を考える
　講師＝萩尾健太（弁護士）
５月18日㈪　ストップ！壊憲手続き法 始動まであと１年
　国民投票法を許さない5･18集会
５月23日㈯　復活する日本帝国主義
　報告＝二谷利子（HOWS校務委員）／ゲスト＝内田宜人（元都教組墨田支部長）
５月26日㈫　日本の短編小説を読む　幸田露伴作『雪たたき』
　講師＝立野正裕（明治大学教授・英文学）
６月３日㈬　暮らしの隣ですすむ軍事化
　講師＝竹見智恵子（ジャーナリスト）
６月６日㈯　映像で読み解く現代の戦争『白バラの祈り　ゾフィー・ショル最期の日々』
　ゲスト＝山口正紀（ジャーナリスト、人権と報道・連絡会世話人）
６月17日㈬　反独占・平和を求める統一戦線の模索
　報告＝新田　進（小川町シネクラブ、国際労働運動研究）／ゲスト＝吉原節夫（元『国際労働運動』編集長）
６月20日㈯　人民主権と日本国憲法
　講師＝杉原泰雄（一橋大学名誉教授）
６月23日㈫　日本の短編小説を読む　大西巨人作『五里霧』
　解説＝立野正裕（明治大学教授・英文学）
７月１日㈬　いま郵政現場はどうなっている？
　講師＝土田宏樹（ＪＰ労働組合）
７月４日㈯　映像で読み解く現代の戦争『キングダム・ソルジャーズ　砂漠の敵』
　ゲスト＝大西赤人（作家）
７月８日㈬　死刑制度を考える　冤罪・被害者感情と死刑
　講師＝山口正紀（ジャーナリスト、人権と報道・連絡会世話人）
７月11日㈯　HOWS美術館　日本画壇の腐敗構造（3）　15年戦争下の美術
　講師＝日夏露彦（美術評論家）
７月15日㈬　戦後資本主義体制の「安定」期
　報告＝山下勇男（社会主義理論研究）／ゲスト＝平賀健一郎（中小労組政策ネットワーク事務局長）
７月18日㈯　09年キューバ訪問団の映像と報告
　報告＝富山栄子（国際交流平和フォーラム代表）／ 09年キューバ訪問団のメンバー
７月22日㈬　米国社会の歴史とオバマ政権
　講師＝上杉　忍（横浜市立大学教授・アメリカ史）
７月25日㈯　米国からの自立をはかる諸国民の闘い
　講師＝新藤通弘（ラテンアメリカ現代史家）
７月28日㈫　日本の短編小説を読む　谷崎潤一郎作『吉野葛』
　解説＝立野正裕（明治大学教授・英文学）
８月１日㈯　20世紀社会主義総括の視点――ギリシャ共産党「社会主義テーゼ」を手がかりに　<夏季セミナー>
　報告＝山下勇男（社会主義理論研究）
８月１日㈯　現代における政治と文学について　<夏季セミナー>
　対談＝鎌田哲哉（『重力』編集会議）／山口直孝（二松学舎大学教員）
８月２日㈰　新自由主義政策の展開と格差社会の出現　<夏季セミナー>
　報告＝新田　進（小川町シネクラブ、国際労働運動研究）／ゲスト＝宮川敏一（元京成労組書記長）
８月２日㈰　『ピエロの赤い鼻』（ジャン・ベッケル監督　2003年・フランス　95分）
　解説＝立野正裕（明治大学教授・英文学）　<夏季セミナー>
８月19日㈬　相対的安定期の終焉を経て激動の時代へ
　報告＝山下勇男（社会主義理論研究）／ゲスト＝二瓶久勝（国鉄闘争共闘会議議長）
８月26日㈬　ヨーロッパの労働運動はなぜ闘えるのか
　講師＝田畑博邦（元東京大学社会科学研究所教授、国際労使関係論）
８月29日㈯　HOWS美術館　美術館訪問
　※詳細については追ってお知らせいたします。
　講師＝金山明子（画家）／金山政紀（画家）
９月５日㈯　朝鮮問題と日本のナショナリズム
　講師＝高嶋伸欣（琉球大学名誉教授）
９月９日㈬　死刑制度を考える　世論と犯罪不安・死刑制度をなくす道
　講師＝山口正紀（ジャーナリスト、人権と報道・連絡会世話人）
９月12日㈯　柳瀬正夢の世界――いまも生きる柳瀬の仕事
　講師＝及部克人（元武蔵野美術大学教授）／片倉義夫（漫画資料室MORI主宰）
９月15日㈫　天皇在位20年と象徴天皇制
　報告＝西川重則（平和遺族会全国連絡会代表）
９月19日㈯　山川菊栄と過ごして
　講師＝岡部雅子（女性史研究家）
９月29日㈫　日本の短編小説を読む　泉鏡花作『高野聖』
　解説＝立野正裕（明治大学教授・英文学）